

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	ふれあいみなみ野館	評価実施年月日	2008年1月～2009年1月
評価実施構成員氏名	松本 真由美 松岡 多恵子 木本 千裕 村瀬 二美 朝日 良輔 川崎 智美 村中 富枝		
記録者氏名	松本 真由美	記録年月日	平成21年1月20日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	法人の理念があり、地域の中で密着型サービスを目指して取り組んでいる。	○	理念にも基づくサービスの向上に努めていきたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	法人の理念を全員で共有し、その実践に向け会議、カンファレンス等で話し合いケアに生かして行けるよう努力している。	○	実践に向け疑問に思ったとき、困ったとき等はスタッフ間で話し合い、相談をし日々取り組んでいる。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	理念は玄関、リビング、スタッフルームに掲示しており、家族には重要事項説明書に記載されており、入居時に説明を行っている。	○	地域においては浸透されていないと思うので、運営推進会議を活用して働きかけていきたいと思う。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	挨拶は積極的にするよう心がけている、又、冬の除雪等は助け合っている。	○	ホームへ気軽に遊びに来て頂ける様な取り組みを行って行きたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入しており、町内行事のあるときは参加させていただいており、「みなみ野館だより」を作成し町内会にて回覧している、また、「みなみ野館祭り」を開催し町内会にも参加の呼びかけを行っている。	○	「みなみ野館便り」「みなみ野まつり」を今後も継続して行きたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	現段階では利用者への支援のみの取り組みしか行っておりません。	○	地域の貢献について今後話し合い取り組んで行きたいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	スタッフ全員が理解し、改善に取り組んでいる。	○	評価を活かして改善に取り組んでいるが、建物については改善が難しい点がある。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を定期的に行っている。	○	委員からの評価、要望、助言等を参考にサービスの向上に活かして行きたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要に応じ相談、連絡等を行っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会がなく活用していない。	○	学習の機会を持ち、必要に応じ活用できるようにする。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	当社では身体拘束及び高齢者虐待検討委員会を設置し、マニュアル、研修会等を通じ防止に努めている。	○	虐待の可能性があると踏まえ、学ぶ機会を持ち防止に努める。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に利用者やご家族と話し合い納得して頂いてから契約を結び入居していただいております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、不満、苦情があった時は速やかに対応するよう努めている。	○	利用者が気軽に意見等を話して頂ける様心がけケアを行う。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態については、その都度家族に報告、相談を行っている。 金銭管理については毎月報告を行っている、お便り等を定期的に出し、近況報告を行っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームに来られたときに近況報告を行い家族に意見等を聞かせていただく様心がけている。 重要事項説明書に記載されており、また、公的窓口を紹介するポスターを見やすいところに掲示している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議や日々意見を聞ける機会があり、スタッフ間で決定し反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務調整の体制は出来ており、急な通院、行事等では調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	努力はしているが、移動や離職があった場合は利用者へのダメージを最小限に抑える様配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>管理者は社内、外の研修を受けている。スタッフは社内、外の研修があるときは受けている。</p>	○	全員が研修等に出席出来ないため、研修後報告会を行い、全員が研修内容を学んでいる。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>管理者は同業者の交流はあるが、スタッフは交流の機会はない。</p>	○	今後同業者との交流の機会を持ちサービス向上に努めたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>管理者、スタッフ間では相談等を行いストレスの軽減に努めている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>個々の努力に皆が気付きあい声を掛け合っている。運営者に個々の努力の様子や成果が伝わるようになっている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前の面談で入居者、家族の希望等を聞き取りに努め、入居後も毎日の生活の中で聞くようにしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前の見学、面接等で家族と話し合い納得された上で入居していただいている。入居後もホームに来られた時及び電話等でも相談を受けたり、相談をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時入居者、家族の思いを確認し必要としている支援を見極める様心がけている、また、他のサービスの方が合うと思われる方には助言、紹介を行っている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が安心して馴染める様座席等の配慮を行ったり工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	出来ること、出来ないことを把握し、出来ることはして頂き、出来ないことについては援助する様心がけている、入居者より学ぶことも多く感謝の気持ちを忘れず支えあって生活しています。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	情報、状況を共有し家族とともに支援していける様な関係づくりに努力している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の関係を理解した上で、より良い関係を築いて頂けるよう考え、相談し支援しています。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方に来て頂ける様時間に制限無く面会していただいています、また、通院等も入居時の主治医を変えることなく馴染みの主治医のままにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係を把握し間に入ったり見守りを行い穏やかに過ごしていただけるよう配慮しています。	○	性格的に合わない利用者同士の関係には特に注意して見守りを行っておりスタッフが間に入りトラブルの防止を行っている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他の施設へ移られた利用者のところへ訪問したり、家族と電話連絡を取るなど関係が続いています。また、退去後も家族の方が来てくださり利用者の状況報告をしてくださいます。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	係りを大切にし訴えや表情等から利用者の意向を把握し、本人の希望に添えるよう努めています。	○	毎日の生活の中で把握に努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族、病院ケースワーカー等からの情報により生活暦や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。	○	毎日の生活の中で把握に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	スタッフ間で利用者の現状を把握に努め、情報交換、話し合いにより情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の意見、希望を配慮し、介護支援専門員と、スタッフ全員参加によるカンファレンスを行い介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>37 ○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>変化が生じたとき、本人家族、主治医等と相談し介護支援専門員、スタッフ全員参加により介護計画の見直しを行っている。</p>		
<p>38 ○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護計画を記録と一緒にファイルしており、それに基づき記録を残し毎月評価、スタッフ全員によるモニタリングを行い介護計画の見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
<p>39 ○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>本人や家族の状況、要望に応じて支援している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源			
<p>40 ○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>運営推進委員に民生委員の方も参加していただいている。警察、消防には協力依頼を行っている。</p>		
<p>41 ○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>他のサービスを利用するための支援は行っていない。</p>	○	<p>他のサービスを利用したいと本人、家族より申出希望があれば支援して行く。</p>
<p>42 ○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議で助言等を頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前よりかかりつけの主治医がおり、通院の支援、相談も行っている。看護職員がおり日常的に相談をしながら健康管理を行っている、また、通院記録も残している。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>主治医と相談しながら支援をしている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員がおり相談しながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>病院関係者との情報交換や相談に努めている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合は本人、家族と相談をし、協力医療機関と連携を取りながら、終末期の方向性を決める体制はある。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>体制は出来ている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人、家族が納得し移れる様十分な話し合いを行い情報提供に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人の誇りやプライバシーを損ねることの無いよう対応に努めているが、スタッフ間でも十分に気をつけるよう指導している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々に合わせた説明、対応を行い納得をして頂けるよう支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にしながら、一日の流れの中にそれぞれ役割を持って頂き、生きがいや喜びを感じてもらえるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	衣類は着替えのときに好きなものを着ていただいている。美容は本人の希望に配慮し、出張美容を利用したり、馴染みの店に行ける様支援している。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	粥、キザミ、ミキサ一食、トロメリン使用等個々に合わせ提供している。盛り付けにも工夫をしている。 食事の準備、後片付けは利用者と協力をしながら一緒に行い同じ食事を楽しんでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	食事、水分の摂取制限、体重の増加に配慮し、本人、家族、主治医と相談しながら本人の希望に添える様支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の訴え、様子を見たり、定期的にトイレ誘導を行い、なるべくトイレで排泄をして頂くよう支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日、時間帯の決め事はあるが、個々に合わせて介助により、入浴をゆっくり楽しめるよう支援している。	○	個々に合わせシャワーチェアを替えたり、バスマットを使用したり、浴槽に椅子を入れたり工夫を行っている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの睡眠パターンの把握に努め、状態に合わせて声かけ、見守り誘導、介助を行っている。	○	空腹時の訴えがあるときは、ホットミルク、少量のおやつ等を提供することもある。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の状態にあわせ出せることはして頂き、役割分担を決め、一人ひとりが自分の仕事ととらえ張り合いを持ち生活して頂ける様支援している。また、おやつ時間を利用して軽い体操、歌等を歌って楽しんでいる。	○	その時々状態、状況でその利用者が役割が出来なかった時は、スタッフがフォローしなくても利用者間で行ってくれるので大切に見守って行きたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理は日常的に職員が行っているが、外食、買い物等での支払いについては本人が行うよう支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	声かけ、誘導、希望によっては外出、散歩、買い物等を行っているが、冬場は足元が危険なため難しい。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事を利用したり、家族の協力を得たりしながら支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の利用者は希望に応じ日常的に行っている。手紙は代筆を行ったりし気軽に出せるよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族の訪問はいつでも可能であり、気軽に訪問していただけるよう心がけ、家族とスタッフとのコミュニケーションも大切にしている。また、知人、友人に関しても気軽に訪問をして頂いております。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	当社では身体拘束及び高齢者虐待防止検討委員会を設置し、社内研修等を通じ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は常に鍵を掛けずに見守り声かけにて対応をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら、リビング、食堂の見守りを行い昼夜定期的に巡回を行っている。	○	2階に居室が多くスタッフルームが無いため、利用者の所在や様子を把握するために日中でも定期的に巡回を行っている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状態に応じて危険と思われる物品等は本人、家族の了解のもとホームで預ったり家族が持ち帰ったりしている。 縫い物が趣味の利用者もあり、針、ハサミの確認、使用していないときは預り等を行い楽しんでいただけるよう支援している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	当社では介護事故防止検討委員会を設置研修会等を通じ事故のないケアに取り組んでいる。	○	ヒヤリハット、事故報告書を作成している。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	介護事故防止検討委員会設置とともにマニュアルを作成し取り組んでいる。また、救急の講習会に参加し、講義内容をスタッフ全員で認識している。ただ、救急時の対応には経験が少なく不安な面もある。	○	今後も講習会、研修会に参加して行きたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災訓練は年2回定期的に行っている。	○	地域の人々の協力については、町内会長に依頼しており、今後防災訓練の参加のお願いをして行く。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時に説明しており、利用者に変化があった時は家族に連絡し相談を行っている。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタル測定を行い、入浴時、着替え時には全身チェックを行っている。スタッフ間で情報を共有しており、必要時には受診をしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医の指示通りに服薬はしており、目的、副作用については薬局より提供される説明書等で理解している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便の確認は毎日行っており、確認表を使用している。水分摂取量に気をつけ、軽い運動を促している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一日2回のうがいを兼ねた口腔ケアを行っており、就寝前には個々の力に応じ声かけ、見守り、介助、半介助にて歯磨き、義歯洗浄を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取表を使用し管理している。食事制限のある利用者や個々に摂取量が違うので把握に努め提供している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は利用者、スタッフ全員が接種している。日々、手洗い、うがい、手の消毒を行い清潔保持をし、感染予防に努めている。感染マニュアルがある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○食材の管理</p> <p>79 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>消毒、除菌等を行っている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>80 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>出入り口の清掃、危険物の除去等に配慮し、玄関周りには花を置いたり家庭的な環境作りに努めている。</p>		
<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>81 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節に合わせ花等を飾り、年中行事に合わせた飾り付けを利用者と一緒に行ったりし、生活感や季節感を感じて頂ける様配慮している。</p>		
<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>82 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビング、食堂のほか自由に過ごして頂ける様、椅子やテーブル、ベンチを配置している。</p>		
<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>83 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室に置く家具等は本人と家族が相談して決めて頂いており、仏壇等を持って来られる利用者もいる。</p>		
<p>○換気・空調の配慮</p> <p>84 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>入居者の様子や反応を見ながら温度調整を行っている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの身体機能を把握し、一人では危険がある人に対しては、付き添い見守りを行い器具を使い身体機能を活かせる様工夫している。また、体操や歌を歌って頂き体力の低下を防ぎ、筋肉や関節を柔らかくして頂くよう支援している。	○	体操と歌を毎日2年間続けているが、今では利用者が自ら声をかけられることもあり、日課として楽しまれ、歌声も大きく、体操もスタッフの誘導に素早く反応し体を動かされており、笑顔も増えてきている。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりわからないことを把握し、わかりやすい様場所の表示をしたり、各室には表札を貼り、声かけ誘導を行いなるべく混乱の無いよう支援している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームの周りに空き地が無く、畑は作られないが、ベランダを利用し、外の空気を吸いながら昼食を食べたり、ミニトマトを栽培したりしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	①

V. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	③
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- 利用者一人ひとりに役割を持って生きがいを感じて頂き、利用者間で助け合い、スタッフは常に感謝の気持ちを忘れない様心がけ支援し生活をしています。
- 毎日おやつの時間を利用して体力の低下を防ぐ為、筋肉や関節の動作を滑らかにする体操を行い、また、誤嚥の予防を兼ねて皆さんで大きな声で歌を楽しんでいます。